

令和5年狛江市教育委員会第8回定例会会議録

日 時 令和5年8月5日（土）10:00～15:20

場 所 防災センター4階 会議室

出席委員 教育長 柏原 聖子
委 員 佐藤 正志・熊谷 勝仁・小川 敦子・森 昌子

関係人 教科書選定協議会会長 細谷 俊太郎（狛江市立狛江第五小学校長）
教科書選定協議会副会長 川崎 貴志（狛江市立狛江第一小学校長）

事務局 （議案説明者）

教育部長 波瀬 公一 教育部理事(兼)指導室長 松岡 弘悟
調整担当理事 上田 智弘 学校教育課長 植木 崇晴

欠 席 者 な し

傍 聴 者 28人

1 審議事項

- (1) 議案第24号
令和6年度狛江市立学校使用教科書の採択について
- (2) 議案第25号
令和6年度狛江市立学校使用特別支援学級用図書の採択について

2 報告事項

—議会報告—

な し

—行政報告—

な し

—事務報告—

- (1) 令和6年度使用教科書の採択について（答申）

教育長 　　ただいまから、令和5年狛江市教育委員会第8回定例会を開会します。始めに本日の傍聴人の取扱いについて、お諮りします。傍聴人の取扱いにつきましては、狛江市教育委員会傍聴規則第3条により、定員が20名と規定されています。しかしながら、本日は多くの傍聴希望の方が見込まれています。そのため、同規則第3条、ただし書の規定に基づき、定員を超える傍聴につきましても、傍聴スペースが許す限り、許可することとしたいと思いますが、いかがでしょうか。

<異議なしの声>

教育長 　　それでは、許可することとします。次に、傍聴人の皆さんにお願いいたします。会議中、みだりに傍聴席を離れること、私語、拍手等を行うこと、議事に批評を加え、又は賛否を表明すること、写真等の撮影又は録音をすること、その他議場の秩序を乱し、又は会議の妨害となるような挙動を行うことは、狛江市教育委員会傍聴規則により、禁止事項となっております。本規則に違反した場合には、退場を命ずることとなりますので違反行為のないようお願いいたします。

　　続きまして、会議録の署名委員の指名を行います。会議録の署名委員は、「狛江市教育委員会会議規則第29条」の規定により「熊谷委員」を指名します。

　　本日の事務報告は、付議案件に密接に関係することから、審議の前に、事務報告から受けることとしたいと思いますが、御異議ありますでしょうか。

<異議なしの声>

教育長 　　それでは、審議事項の前に、事務報告を受けます。事務報告（1）「令和6年度使用教科書の採択について（答申）」、について報告を求めます。

指導室長 　　令和5年5月12日開催の令和5年狛江市教育委員会第5回定例会において、「狛江市立小学校及び中学校教科書採択に関する規則」及び「狛江市立小学校及び中学校教科書採択に関する実施要綱」の規定に基づき、教育委員会が教科書選定協議会に対し、教科書採択に関する必要事項の調査の諮問について、審議いただきました。この結果を受け5月30日付けで、教科書選定協議会へ諮問しましたが、8月1日付けで教科書選定協議会から教育委員会に別紙のとおり答申がありましたので報告いたします。

教育長 ただいま事務報告（１）の説明が終わりました。委員の皆さんには、教科書選定協議会の答申は事前にお配りし、熟読されていることと思いますが、この件に関して質疑・御意見があれば伺います。

なければ、次に、付議案件（１） 議案第 24 号「令和 6 年度狛江市立学校使用教科書の採択について」、審議いたします。

本件は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律及び地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、令和 6 年度から使用する狛江市立学校の教科用図書の採択を行うものです。

詳細は指導室長から説明します。なお、本日の審議にあたっては、「狛江市教育委員会会議規則第 14 条」の規定に基づき、小学校の教科用図書の選定にあたっては、教科書選定協議会会長の「狛江市立狛江第五小学校 細谷校長」、同協議会副会長の「狛江市立狛江第一小学校 川崎校長」に、それぞれ出席いただきます。内容等について質問があれば、お聞きいただければと思います。それでは、補足説明をお願いします。

指導室長 教科書の採択は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律の規定により、文部科学大臣の検定を経て、教科書目録に登載された教科書のうちから採択することとなっております。

今回、小学校用教科書においては全教科の教科書について、新たに採択を行います。今回の教科書採択にあたり、教育委員会では「狛江市立小学校及び中学校教科書採択に関する規則」及び「狛江市立小学校及び中学校教科書採択に関する実施要綱」の規定に基づき、教科書選定協議会に対し、採択に関する必要事項を調査するよう諮問し、令和 5 年 8 月 1 日に答申をいただいております。答申にあたって、教科書選定協議会は、「狛江市立学校使用教科書調査研究資料」、「狛江市立学校使用教科書校内調査研究資料」、「市民アンケート」により検討を行い、「狛江市立学校使用教科書選定資料」を作成しております。この「狛江市立学校使用教科書選定資料」は、「内容の選択」、「構成・分量」、「表記・表現」、「使用上の便宜・その他」の 4 つの観点を設け、それぞれの観点について、各教科書の特色が明らかになるよう作成されています。

教育長 それでは、小学校の教科用図書の採択の協議を行います。事務報告（１）の別紙を参照しながら、議事を進めます。

まずは、国語です。国語科の目標は、「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動をとおして、国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を育成することを目指す」です。

皆さんから順次御意見をいただきたいと思います。

森委員 日常生活に必要な国語について、学習指導要領で重視されている伝え合う力を高めること、思考力や想像力を高めること、そして言語感覚を養うことを通じて、国語を適切に表現し、理解する能力を育成するのに、充実が図られているかという点を重視しました。

光村図書を推薦します。光村図書は永く教科書に掲載されている文章も新しい文章もあり、子どもたちが興味を引き込まれるような題材等が工夫されています。構成が「みとおし」「とらえて」「ふかめて」「まとめる」そして「ひろげよう」となっており、単元毎の課題や、学習の進め方と考え方の過程が示されています。また、テーマに着目した本、関連した本の紹介ページや、「本の世界を広げよう」という項目があり、次の読む手がかりになるような、本が多く紹介されているところも魅力的に感じました。それから、文章の中に出てくる表現と語句を取り上げて読む手がかりやヒントになる箇所もあります。言語感覚を養うのに豊富な語彙力も必要だと思いますが、巻末に気持ちや事柄を表す数々の「言葉のたから箱」が掲載されています。自分の考えを効果的に言葉で伝えて表現力を深めるという学びができ、かつ言葉の持つ良さを認識できると考えました。さらに考え方を整理するのに、図を使用し、縦と横に「比べる」「広げる」「位置づける」の観点を設けて分けるという、それぞれの観点から整理する方法が提示されています。論理的思考力の育成と、わかりやすく伝える対話的な深い学びにつながると感じます。5年生の「銀河」の付録で、「学習を広げよう」という項目に点字表と手話の挨拶、指文字のあいいうえおが掲載されています。耳が聞こえない方にとってのコミュニケーションの1つに手話があり、手話は自分の気持ちや考えを表す言語であるということが掲載されています。2025年に東京でデフリンピックが開催されることとなっており、言語の1つに手話があること、人との関わりの中でこうした伝え方もあることを学び、指文字表等を使用し障害者への理解を深めることにもつながると考えました。

もう1社は東京書籍です。1年生から6年生まで「見通す」「取り組む」「ふり返る」という3つのステップを繰り返して学習することで言葉の力を獲得できるというステップの学び方が紹介されています。また、「〇年生の本棚」という項目で、多くの書籍が紹介されており、読書意欲の向上や、学校図書館との関連も期待できると評価しました。

小川委員 教育出版と光村図書を推薦します。

光村図書は、読む、書く、話すと色分けされており、このページで何を学ぶのが視覚的に明確に伝わる点と、学んだことを振り返って生活に活かしながら国語を学べる点が良いと思いました。その中でも、家庭学習の振り返りでもよく使用する1年生の教科書の巻末ひらがな表において、「ぎゃぎゅぎょ」という破裂音のさらに小さい文字で伸ばす文字まで、他の五十音と同列に扱い、大きな文字で書かれている点が良いと思いました。6年生の教科書は、デジタル機器を使いこなすのが当たり前の社会で、日本語のセンスを高めていくよう、言葉の成り立ちや、漢字・熟語の成り立ちを丁寧に取り扱っている点も良いと思いました。

教育出版は、男女平等の社会を推進するにあたり、国語の教科書で女性の伝記を取り扱っているのは、令和の視点を取り入れた新しい国語教育として一歩進んでいると思いました。また、6年生の教科書は資料の読み方や、パネルディスカッション等、社会で役立つコミュニケーションツールを学べる点も良いと思いました。中でも卒業文集の書き方や、大人でも理解が難しい哲学的なテーマの内容が、とても丁寧にわかりやすく記載されていました。

佐藤委員 国語はすべての教科の基礎となる教科です。学習指導要領で重視されている子どもの主体的な学びがどのように保障されているのか、言語能力を獲得する活動がどのように構成されているのかという視点で検討しました。3社とも子どもの学びの流れについて、大事に示されています。その中で、光村図書が子どもの問いを持った上に目標が示され、そして、それを踏まえて「とらえよう」「ふかめよう」「まとめよう」「ひろげよう」と非常に丁寧に学習の過程が示されており、子どもの感覚に最も寄り添った構成だと感じました。

言語能力の獲得について、例えば東京書籍は言語活動のヒントとして子どもの作品例を示している工夫があります。ただし、私は光村図書の「言葉に着目しよう」というコーナーに注目しました。例えば、高見順の詩を扱う「言葉に着目しよう」のコーナーでは、「われは草なり」という表現が他の表現とどのように結びついているのかを考えることとなっています。このような視点は言葉の果たす役割に着目させ、言葉に対する考え方を養っていく上でとても大事だと感じました。それから、学習指導要領で学校図書館の活用が重視されており、すべての教科で学校図書館を活用して体系的な学びを作っていくということが示されています。この視点について、光村図書は学校図書館と読書の扱い方が非常に丁寧だと見受けました。以上のことから、光村図書を第1に推薦し、東京書籍を第2に推薦します。

熊谷委員 国語は社会生活を営む上での基本事項を学ぶ教科であり、最も重視すべき教科だと思います。学習指導要領で示されている主体的な学びがどのように捉えられているのか、問題解決学習がどの程度まで子どもたちにとって可能となっているのかを中心に検討しました。見通しを持って、問題を見つけて、考えて、解決して、まとめるという光村図書の構成が問題解決学習の基本であり、最も良いと思います。また、内容の選択について、基本である「言葉に着目しよう」という項目が設定されていることがとても大事だと思いました。そして、持続可能な社会の実現のための国際理解教育や平和教育がどのように取り上げられているのかについても検討しました。他の出版社でも取り上げられていますが、比較的数量多く SDGs に関する内容を取り扱っているのは、光村図書だと思います。それから学校図書館の活用の視点からも、狛江市の新図書館と学校図書館の連携を進めるには光村図書の内容がより良いと思い、推薦します。

教育長 光村図書と教育出版の2社を推薦します。学習指導要領では、日常生活に必要な国語、日常生活における人と人との関わりの中で伝え合う力が求められており、目標とされております。

光村図書に関しては、言語能力の向上に資する題材の幅広さ、また、問いを立てて考えるという学習課題の設定と考えの形成過程が明示されている点を高く評価しております。

教育出版に関しては、語彙を増やすことに着目している点、また、SDGs マークがあり課題と関連させている要素も掲載されていることから、国語から広げていくという点が特徴だと思います。最終的に、最もふさわしいと思われる教科書を決めていきたいと思います。いかがでしょうか。

森委員 最初に申し上げたように光村図書を推薦します。

小川委員 挙げた2社のうち、光村図書を推薦します。

佐藤委員 子どもの思考過程に即しているという意味で、光村図書が良いと思います。

熊谷委員 学習構成が良くできている光村図書を推薦します。

教育長 皆さんから見通しを持って課題を設定し、解決していくという学習構成や、言語能力の向上が評価されている光村図書に絞られました。私も光村図書が良いのではないかと思います。

それでは、光村図書を採択するというところで、御異議ございませんでしょうか。

<異議なしの声>>

教育長 それでは、国語は光村図書を採択します。
次に、書写について、皆さんから順次御意見をいただきます。

小川委員 書写については、3社とも丁寧に指導できる内容になっていると感じましたが、その中で光村図書を推薦します。デジタル化が進み、文字を書くことが少なくなっている中で、国語力を高めるための様々な工夫がされています。手紙やハガキ、原稿用紙の書き方等が、各学年のレベルに応じて丁寧に記載されていました。高学年では、新聞やポスター、パンフレットの作り方等の学習内容が入っており、書写以外にも社会とのつながりを意識した様々な学習ができて良いと思いました。

佐藤委員 書写は書くことが中心となるため、子どもが書くことに興味関心を持って学習に取り組む構成ができているかどうかという視点で検討しました。また、国語教科書との関連も図る必要があると考えております。3社とも子どもが書くことに興味を持てるよう工夫しており、特に日常生活との関連を重視しております。

東京書籍は日常生活に活かせる能力の育成を図ろうとしております。

教育出版は文字に興味を持たせる様々な教材を用意しております。

光村図書は連絡帳の書き方等日常生活との関連を意識した教材を用意しております。しかしながら、書写の教科書は国語の教科書と関連づけた内容となっているため、国語は光村図書を採択したことを踏まえると、それに関連させて書写も光村図書を考える必要があると思います。

熊谷委員 3社とも優劣つけがたいですが、私も国語の教科書との関連を重視すべきだと思いますので、光村図書を推薦します。

また、例えば3年生の毛筆指導において、「水玉」について、「水」が難しいため、「玉」のみを扱うことが多いですが、光村図書は「水玉」を取り扱っています。3年生で一番重視すべき筆の使い方をしっかり指導していることは特徴的だと思います。硬筆指導において、簡単な筆使いから順を追って組み立てて配列を考えさせるという点も良いと思います。

森委員 3社とも鉛筆や筆の持ち方から、後片付けまで丁寧に作られていると感じましたが、その中で光村図書が最も良いと思います。

光村図書は文字を学んでいく最初の段階で、字の近くに猫のイラストが添えられており、猫のポーズや動きで「とめ」「はね」「はらい」等を表現しています。力加減も含め字の書き方を視覚的にわかるように工夫されている点が良いと思います。また、冒頭に字を書くことはスポーツと同じく体を動かすことであり、思い通りに動かすには準備運動が必要だという説明があり、子どもに寄り添った内容だと感じました。鉛筆の持ち方についても、「つまんで持ち上げて、スーッと倒して中指を枕」という表現をしており、初めて鉛筆に触れる子どもたちに正しい持ち方に誘導しやすい指導方法だと感じました。それから、ハガキの書き方の指導もあり、「絵手紙の発祥の地 狛江」にとって、幅広く活用できる教材だと感じました。

教育長 書写は3社とも黒墨と朱墨の使い分けで子どもたちがわかりやすいように表現されており、どれも優れた教科書だと思いました。その中でも、日常生活に必要な言語をどのように伝えていくのか、表現をどのようにしていくのかという観点から、光村図書を推薦します。

また、光村図書は1年生から「とめ」「はらい」の鉛筆写真があり、角度を変えていく等の大切なポイントが記載されているという点にも注目しました。

それでは、皆さんから挙げられた書くことへの興味関心、国語教科書との関連、新聞づくり等日常生活とのつながり、そして、書くスキルの指導といった観点から、光村図書を採択することでよろしいでしょうか。

<異議なしの声>

教育長 それでは、書写は光村図書を採択します。

次に、社会科です。社会科の目標は、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり、課題を解決したりする活動をとおして、グローバル化する国際社会に主体的に生きる、平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質能力の基礎を育成することを目指しております。

それでは、皆さんから順次御意見をいただきます。

佐藤委員 社会科の学習は問題解決学習であるべきという考えを基本的に持っております。子どもが学習問題をつかんで、探求的に追求し、そして自分なりの考えを持って表現するという学習展開を考えた時に、どの教科書がふさわしいのかという観点で検討しました。どの教科書も基本的には、「つかむ」「調べる」

「まとめる」という問題解決の過程は位置づいていますが、若干の軽重があると見受けました。その中で、子どもの基本的な興味関心を大事にして、しっかり単元をとおした学習問題をつかんでいくということを最も意図している教科書は東京書籍だと思います。

東京書籍は見開きで学習問題をつかむというページを大事にしており、教師が課題を与えるのではなく、子ども自身が学習問題を作っていく学習にしていきたいという意図が良く表れていると思います。そして、それを調べて、追求をして、まとめて、単元によってはさらに広げていくという過程で、教科書は構成されております。まとめの段階においても、単に知識を整理して身につけるだけではなく、子ども自身が自分の考えを表出するというまとめを意識することが大事だと思いました。こういった点を重視すると、総合的に3社の中で東京書籍が最も良いと思います。教育出版も同じような形で、「つかむ」「調べる」「まとめる」という学習過程を大事にしていますが、この2社を比較すると、例えば6年生の歴史的な内容の学習においては、できるだけ元資料を使用し、探求的な学びの態度を育てようとするのが東京書籍だと思います。

そういう意味で、東京書籍を第1に、教育出版を第2に推薦します。

熊谷委員 社会的な見方や考え方を如何に培っていくのかという観点で検討しました。3社とも社会的な見方や考え方を問題解決学習の中で適切に取り込んでおり、優劣をつけがたいと思います。

その中で、日本文教出版は、狛江市の水辺の楽校を扱っており、とてもインパクトが大きいと思います。水辺の楽校については、私も教職員の頃、多摩川で一緒に活動したことがあり、社会科でも理科でもとても良い内容を取り扱える題材だと思いました。まず、この点から日本文教出版が良いと思います。また、今後デジタル教材が主流になってくると思われる中で、日本文教出版はバランス良くデジタル教材を取り扱っていると思います。

東京書籍もデジタル教材を含め内容が非常にわかりやすく、良いと思います。

日本文教出版社を第1に、東京書籍を第2に推薦します。

森委員 問題解決のために、探求して、調べ学習をしてまとめる、そして発展させていくという社会科の学習の流れについて、どの教科書がよりわかりやすいのかという視点で検討しました。3社とも問題解決学習について重視され、作られていると思います。

その中で、東京書籍は歴史、政治、国際の単元で2冊に分かれていました。イラスト、写真、図、グラフ等の資料も多く掲載されており、子どもが社会的

事象をつかみやすい教科書だと思います。また、言葉の解説の吹き出しもあり、知識や思いを深めながら、自分の言葉でまとめて考えを構築していくという学習の流れが深い学びにつながるのではないかと考えました。例えば、4年生の教科書で、「きょう土の伝統、文化と先人たち」「残したいもの、伝えたいもの」という学びの中で、橋として初めて国宝に指定された熊本の山都町にある石造りの「通潤橋」が取り上げられております。そこには、水を高い場所に吹き上げる原理の解説と等高線の書かれている地図が載っています。また熊本の地震からの復興等、地元や農業に関わる人々の問題の解決についても、丁寧に書かれていました。

東京書籍は社会の教科書でありながら、他の教科への学習の広がりや思考力の向上につながる内容となっており、深い学びができる教科書だと感じました。

日本文教出版も問題、追及、疑問に思ったことを提案して進めていく過程で考えが深まるという学習の流れが構成されており、統計やイラストの資料、写真も多く掲載されております。また、インタビューが多いのが特徴的であり、様々な産業で働く人々の声が子どもに届きやすいのではないかと思います。そして、身近な学習テーマとして学習しやすい狛江市の水辺の楽校や、日常生活に活かせるプラスチックゴミの分別方法も載せてあります。それから、例えば天気からアイスクリームの売り上げを予測する等、子どもが意欲を持って主体的に学習に取り組めるような身近なテーマも多く取り上げられている点も良いと思います。

小川委員 どの教科書の内容も充実しており、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養うという社会科の目標を満たすために、様々な情報が盛り込まれており、甲乙をつけがたい印象です。子どもたちが自ら学習を深めていく調べ学習に幅広く対応できる内容になっているかという点に着目しました。

その中で、教育出版は、学習内容の各単元の冒頭に「この時間の問い」という見出しをつけて、その単元で学ぶべき内容を子どもに伝わりやすくする工夫がされています。また、すべての学習内容を「つかむ」「調べる」「まとめる」というキーワードを用いて区分し、学びを確実なものにする工夫がされていて良いと思いました。

東京書籍も「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」というキーワードを用いて学習内容を区分しており、問題解決の流れが明確で、調べ学習を軸に学習を進められて良いと思いました。また、学習内容を身近な事象に落とし込んで深めている点が良いと思いました。日本文教出版は4年生の教科書で狛江

市の水辺の楽校を取り上げている点も良いと思います。3社の取り扱っている都市事例の地域性を全体的に見たところ、東京書籍は東北地方を、教育出版は関東地方を、日本文教出版は関西地方を多く取り上げていると感じました。

取り扱っている都市事例の地域性の観点から、狛江市が含まれる関東地方を取り上げている教育出版を推薦します。もう1つは、問題解決の流れが明確で調べ学習を軸に学習できる東京書籍を推薦します。

教育長 3社とも社会科が求めている社会的な見方・考え方を働かせて課題を追求し、その活動をとおして解決していくという目標に重きを置かれており、優れた教科書です。その中で、まず、狛江市の特性から、多摩川・野川とともに自然災害を学んでいくフィールドがあり、日本文教出版は最も自然災害を扱っており、かつ狛江市の水辺の楽校も扱っております。そして、大量な情報が増えている社会において、それをどのように峻別して活用していくのかという活用能力が求められています。情報技術を活用して、生活を向上させていくという内容を多く取り扱っているのは、日本文教出版です。

この2点から日本文教出版を推薦します。2社目については、できることを考えたり、添削したり、判断したりする場面を明確に提示している点では、東京書籍がわかりやすく徹していると思います。

そこで、委員長に伺います。6年生の教科書について、東京書籍は政治国際編と歴史編に分冊されており、教育出版と日本文教出版は、1冊にまとめられております。この点について大きな特徴が出ていますが、調査委員会の中で、意見等はありませんでしょうか。

川崎校長 過去、分冊されている教科書の方が軽くランドセルに入れるのに負担が少ないと論議されたことがありましたが、昨今タブレットが導入され、教科書は基本的に学校に置くようになってきていることから、調査委員会では、分冊に関する意見等はありませんでした。

教育長 皆さんから御意見をいただきましたので、最終的に推薦をお願いしたいと思います。

佐藤委員 問題解決の流れを重視するという意味で東京書籍を推薦します。

熊谷委員 問題解決学習は3社とも位置づけられており、それぞれ工夫されていると思います。水辺の楽校の教材を活用するということが、非常に良い学習成果に期待できると思いますので、日本文教出版を推薦します。

森委員 狛江市の中で学習するにあたり、自然災害の取扱いと水辺の楽校の掲載がある日本文教出版の方が学習に取り組みやすいと思いますので、推薦します。

小川委員 各単元の冒頭に「この時間の問い」という見出しで学ぶべき内容をそれぞれ載せてあり、特徴的に学びを進められる教育出版を推薦します。

教育長 地域を学ぶという観点から、水辺の楽校が取り扱われており、自然災害に重きを置かれている日本文教出版がよりふさわしいのではないかと考えます。問題解決学習の流れについては、どの出版社も構成されており、それぞれ工夫されています。その中で、社会科の教科特性から、社会的な事象の特色や地域社会に着目した時に、日本文教出版を最終的に推薦したいと思いますが、いかがでしょうか。

<異議なしの声>

教育長 それでは、社会科は、問題解決学習から発展させるとともに、狛江市によりふさわしい教科書として、日本文教出版を採択します。

次に、地図について、皆さんから順次御意見をいただきます。

熊谷委員 地図については、狛江市は東京都に所属していることから、東京都を中心に江戸時代の後期からのページもある帝国書院が良いと思います。

東京書籍は図版がきれいですが、形式的には地図の使い方を勉強するのに抵抗があると感じました。

帝国書院は昔から地図に力を入れており、最近は外国語の挨拶を載せてあり、グローバル化にも対応しているため、帝国書院を推薦します。

森委員 地図は見やすさが最も重要だと思います。まず、活字の大きさ、色合い、配置されている特産品や建物等様々な情報について、全体的な見やすさを重視して、帝国書院を推薦します。

また、東京都全体と都市部が大きく掲載されており、見やすい点も評価できます。それから、江戸時代の町並みも載せてあり、リサイクルが進んでいた江戸の商売も取り上げられており、紙屑を買う人や、屋台を担いで移動するファーストフードの蕎麦屋等、SDGsに関連した紹介が多い点も興味深いと思います。地図の活用の観点からも、例えば5年生、6年生の校外学習で行く予定の八ヶ岳と日光のページもとても見やすく、子どもたちにとって東京都との距離感がつかみやすく使いやすいと思います。そして、「地図マスターへの道」と

いうコーナーが地図帳に興味を持って学習することができるようになってい
ます。都道府県の注目ポイントでは、形、文字、手話で表す県名も載せてあり、
より地図を覚えやすいヒントがある点も評価しました。

小川委員 帝国書院を推薦します。全体的な色合いや各地域の特産物等の情報が見やす
いところが良いと思いました。また、江戸時代の東京との比較や、「地図マス
ターへの道」という内容が、将来的に地理や歴史、地域の伝統や愛着を深める
ための学びにつながるように構成されている点が良いと思いました。

佐藤委員 地図としての見やすさ・読みやすさ、そして地図を身近に感じるような工夫
がされているかどうかという2つの観点から、帝国書院が良いと思います。

東京書籍は地図のページも統計資料等のページも文字が、ややきついという
印象を受けており、帝国書院は見やすさ・読みやすさが適度であると感
じました。また、地図を身近に感じる工夫については、東京書籍も子どもの興味を引
くような要素を取り入れて工夫していると思いますが、帝国書院の方は実際に
自然災害と防災等、地図と生活との関わりを持たせようとする工夫をしている
という意味で、総合的に帝国書院が良いと思います。

教育長 子どもの親しみやすさという点、そして地図に対して興味関心を抱くという
点では、東京書籍も帝国書院も工夫がされていると思います。その中で、国際
社会を生きていく子どもたちにとってこの中に掲載されている地が正確である
かどうかという観点から、帝国書院を評価しました。また、「地図のマスター
への道」で、地図帳に関心を持たせるといったような工夫もされており、江戸時
代後期の江戸の地図、暮らしの様子等も記載されている観点からも、帝国書院
が良いと思いました。

それでは、佐藤委員が指摘した地図の見やすさ、身近に感じるかどうか、森
委員が指摘したSDGsとの関連、そして、熊谷委員と小川委員が指摘した江戸
時代後期の地図が掲載されているというつながりといった点から、帝国書院を
採択することで御異議ありませんでしょうか。

<異議なしの声>>

教育長 それでは、地図は帝国書院を採択いたします。

次に、算数です。算数科の目標は、数学的な見方考え方を働かせ、数学的活
動をとおして、数学的に考える資質能力を育成することを目指しております。

それでは皆さんから順次御意見をいただきます。

森委員 学校図書を推薦します。問題解決的な学習を充実させるために、「はてな」で解決を振り返って、児童にしっかりと考えさせて、「つなげたいな」では、思考力を深める新たな問いがあって、振り返ってつなげて、定着させていけるといった工夫がなされていました。「めあて」のところは、子どもの言葉での吹き出しになっており、考え方のヒントが提示されています。算数の学びに必要な見方と考え方について「考え方モンスター」というのがあり、キャラクター化されて随時示されていて、問題解決へのヒント等がたくさん載っていました。また、教科書の大きさが横幅の広いワイドサイズになっているのも見やすいという印象を受けました。表紙も算数に結びつけるような学びのヒントがあるデザインになっています。小さな人がミニチュアの作品として載っており、3年生では、表紙にサンドイッチとおにぎりが載っており、そこに山登りをしている人が載っているデザインになっています。この3年生の教科書では、三角形の性質や書き方を学ぶという項目があり、表紙からヒントが出ていると感心しました。他の学年でも、回転ずしのお皿が何枚も重なっているような数を数えるものになっていたり、果物や野菜、アイスの最中やチョコレートで「まち」が作られていて、そこにミニチュアの人が登場するような表紙になっていたり、とてもデザインの良くてできています。算数は単に数字を計算するだけではなく、生活の中に算数を見つけていくということもとても大切なことだと思います。身近にあるものから算数への学習や興味へ結びつけるヒントになることが、表紙も含め、様々なところにあつたのがとても良いと思います。

もう1社が日本文教出版です。「問題を考えて」「学び合う」「ふりかえり」「学習の流れ」という学び方の4ステップが具体的に示されています。「もっとジャンプ」というのがあり、6年生では、コピーの拡大と縮小が例に取り上げられています。倍率の求め方等、身近な例も提示されていて、より興味が引く内容になっていると思います。また、発展的な内容で活用する力を向上させるようなテーマが多い点、作品に英語が記載されていて外国語との関連が図れる点も良いと思います。

小川委員 どの教科書の内容も甲乙をつけがたいですが、日本文教出版と学校図書を推薦します。

日本文教出版は、他社の教科書と比べて文字が若干見やすいと感じました。高学年になると、視力が悪い子どもが増えてきて、文字の読みやすさはとても重要になってくると思います。できるだけ太い文字にする等、文字の見やすさを工夫している点が一番良いと感じました。また、学年が上がるにつれて学習内容が増えてくると、前の学年で学んだ内容を忘れて、なかなか学習内容が積

み重なっていかず、高学年で算数が苦手な子どもが増えてきます。日本文教出版は、学習内容を忘れさせない振り返りの工夫や、重要な学習内容を繰り返し学ばせる構成になっていて良いと思いました。そして、説明する文章の表記と、数字を用いた計算式の表記とのメリハリがあって見やすいです。「使ってみよう」という見出しのところでは、日常生活で算数を活用する場面を紹介しています。算数嫌いが増えてくる高学年の子どもに、算数は日々の生活でも必要なので苦手でも勉強しなければと思わせる工夫がされている点も良いと思いました。

学校図書は、表紙がとても素敵です。細やかなミニチュア細工が描かれていて、ミニチュアの世界に引き込まれるとても楽しい表紙です。すべての学習内容が大きく3つに色分けされていて、学期毎に学習がどこまで進むのかがわかりやすいです。博士との対話形式で学習を進めていく構成もわかりやすいです。どの教科書にも補充問題は付いていますが、学校図書は、学習内容を再チェックする部分、チャレンジして頑張ってみる部分、ジャンプしてさらに頑張ってみる部分と、3ステップのとても充実した補充問題が付いていて、レベルの高い子どもたちが授業に飽きない工夫がされている点も良いと思いました。

佐藤委員 子どもの意欲的な学びと主体的な学びを保障しようとしているか、色々な子どもの能力差に対応できるかという2つの視点で検討しました。算数は子どもによって色々な能力差があります。特に狛江の実態を考えると、非常に算数的に進んでいる子どもがある程度いるような状況があります。そのため、飽きないような発展的な内容も含めて入れることが、狛江の教科書には必要だと思いました。そういう意味で、まず挙げたいのが学校図書です。

導入に算数と自分たちの生活との関係を示す話題が入っており、算数を身近に感じる1つの契機になります。それから、具体物から抽象物へ、そして数字へという段階を追っております。どの教科書もこの段階を追った指導を心がけているのですが、それが比較的明確になっているのが、学校図書だと思いました。6年生の教科書では、「中学校へのかけ橋」という別冊が入っており、それも含めて大概の子どもたちに対応できるのではないかと感じております。

もう1社は東京書籍です。「おもしろもんだいにチャレンジ」や、興味関心を高める企画が入っております。それから、「学習のしあげ」というところ、色々な子どもに対応できるのではないかと思います。算数的活動領域の補助資料にも活用できると思いました。

3社目は日本文教出版です。各学年に付いている算数マイトライが参考になると思いました。

熊谷委員 算数は数学的な見方・考え方を重視するということで、その辺りを重点的に見ました。他各社とも見方・考え方を工夫していますが、その中で学校図書を推薦します。

学校図書は見方・考え方にプラスアルファして課題を再提示している部分が、非常に特徴的です。少し発展して、子どもたちの興味関心を高めながら問題解決学習を進めていく点が良いのではないかと思います。

もう1社は日本文教出版です。高学年で索引に普段使わないような難しい英語が出ている点は少し引っかけりましたが、他の部分については、日本文教出版も、学び方が4つのステップで、流れがとりやすいと思います。

第1に学校図書、次に日本文教出版を推薦します。

教育長 数学的な見方・考え方を働かせる時に、日常の事象を数理的に処理する技能と基礎基本的な概念の形成が算数に求められており、一方で、数学的な活動の楽しさという興味関心というものも求められております。各社とも、様々な題材を使って、子どもたちの興味関心を持たせるよう、あるいは、先に広げたり発展させたりという工夫はなされているのですが、その中で、学校図書がより工夫されていると思いました。

他教科との関連、そして日常との関連、具体的には、献立や、気候変動、温暖化、餃子の消費等子どもたちの身近な課題も含めて、社会全体の課題が捉えられるように、算数の中で取り扱っているというところに意味があると思いました。そして、「中学校へのかけ橋」といった、次につなげていく、「もっと算数」というようなところで、様々なつながりを意識しながら構成されている点にも着目しました。

2社目は日本文教出版です。「チェック」「チャレンジ」「トライ」ということで「算数マイトライ」というようなもの、そして、どのような問題を、どのように考えて、学び合って、振り返っていくか、というような流れが具体化されていますので、狛江の子どもたちがこれから学ぶ時に適しているのではないかと思います。

それでは、一通り意見をいただきましたので、最終的に、最もふさわしいと判断された教科書を挙げていただきたいと思います。

森委員 思考力を深めて新たな問いが提示されているという学びができる学校図書を推薦したいと思います。

小川委員 すべての学習内容が大きく3つに色分けされていて、学習の進め方がわかりやすく、補充問題が難易度別に分かれて充実している学校図書を推薦します。

佐藤委員 私も学校図書が良いと思います。

熊谷委員 私も学校図書が良いと思います。

教育長 それでは皆さんから、日常につなげて興味関心を抱きながら、基礎・基本から発展的な学習に至るまで、狛江の子どもたちが学ぶ時に、あるいは多様な子どもたちへの対応ということを考えた時に適していると思われる学校図書を採択するというので、御異議ございませんでしょうか。

<異議なしの声>

教育長 それでは学校図書を採択することといたします。

続きまして、理科です。理科の目標は、自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しを持って観察実験を行うこと等をとおして、自然の事物、現象について問題を科学的に解決するために必要な資質能力を育成することを目指しております。

それでは皆さんから順次御意見をいただきます。

小川委員 国全体でも算数や理科の教育に力を入れており、理科嫌いを増やさない、理科に対して興味関心を持たせる工夫がされているかという点に着目しました。

まず、東京書籍を推薦します。各単元の学習のめあてや学習の手順が視覚的に示されていて、学習の進め方がとてもわかりやすくなっています。また、学習内容をわかりやすくするための写真が多く掲載されており、理科に対する興味関心を持たせる魅力的で迫力ある写真ばかりで、まるで図鑑のような教科書だと思いました。5年生の私たちの暮らしと災害という学習単元に、狛江の多摩川の写真が載っている点も良いと思いました。

もう1つは学校図書です。全体的に学習の進め方がわかりやすく、単元毎に学習内容のまとめを表記して振り返ることができる点もシンプルで良いと思いました。また、とてもきれいで魅力ある写真が多く掲載されている点も良いと思いました。

佐藤委員 問題解決の学習過程が重視されているかどうか、資料としての見やすさ、鮮明さという2つの観点で拝見しました。

まず、どの教科書も問題解決の過程をしっかりと踏まえていると思いました。問題を見つけよう、調べよう、そして調べたことをまとめて伝えようの3つが

はっきりしており、さらにそこを細かく整理している学習過程をとっている大日本図書を1番に挙げたいと思います。

2社目は、問題予想、計画、実験、考察、まとめという、単につかむ、調べる、まとめるではなく、それをさらに細かく学習段階を明確にしている東京書籍です。

3社目は、活動、問題、予想、実験、まとめという学習過程を比較的明確に示している啓林館です。

次に、資料として、見やすさや、参考になるかどうかという観点から見た時には、東京書籍は写真がはっきりして、とてもわかりやすい教科書になっています。それから次に、大日本図書も、非常に学習のねらいに即した効果的な写真を使っていると思いました。啓林館では図が多用されています。色々な図を使って子どもにわからせようとしています。

以上のことから、東京書籍、大日本出版、啓林館の3社を挙げたいと思います。

熊谷委員 理科の問題解決学習の観点、それから目に見えない部分を学習するため資料としての内容がどの程度重視されているかの観点から検討しました。問題解決学習については、少し軽重があると感じました。教科書で見方・考え方の流れを具体的に示し過ぎると、授業としては、非常に良く流れると思いますが、子どもたちの発想が阻害され、科学的な見方・考え方が少し育ちにくいのではないかと思います。

それから資料性としては、東京書籍の図版が非常にわかりやすいと思いました。大日本図書の図版も非常に良いと思っております。

第1に東京書籍、2番目に大日本図書、3番目に学校図書という考えを持っています。

森委員 自然に親しみ、その中で見つけたことに関して問題をどう解決していくか、自然の中で目にすることを子どもたちの興味や関心を引き立て、かき立てて、実験や観察等とおしながら、問題解決の学びを深めていくというのが、理科の中では大切だと思います。

その中で、私が推薦するのは東京書籍です。「レッツトライ！」では、問題をつかんで、調べて、まとめると、問題解決の流れが、大きな画像やイラストで視覚的にわかりやすく示されています。考察をする際に、結果を基に考えられるような親切的なイラストや言葉があって、学習のヒントにもつながると思います。加えて、実験では安全に気をつけることに関して、危険とイラストや文字で赤字で示されています。また、スカイツリー等身近なものが掲載されてい

て、生活場面や学術的な内容について示されています。大きめなサイズの教科書なので、植物や昆虫の写真、イラストもとてもわかりやすく、とても美しいと思いました。

どの教科書にも、最初にモンシロチョウとアゲハチョウの成長の様子を載せてありますが、東京書籍はモンシロチョウのイラストの横にある丸い空白の部分を緑の色鉛筆で擦ると実際の大きさが浮き出てくるという仕掛けがあります。理科の学習を始める3年生のスタート時には、子どもの興味を大いに引きつけるつくりになっていると思います。また、「水の量ととける量」という説明では、「算数科で学んだことを活用しよう」という算数につながる巻末の紹介があり、良いと思います。

もう1つが大日本図書です。実験、それから観察の様子から計画を立てて、観察実験から結論を導いていくという流れが丁寧に扱われています。また、大きく鮮明な写真や、シンプルな図が多用されています。例えばヒマワリやホウセンカは、地上だけでなく土の中の種からの成長様子も写真で掲載されていたり、花のアップの写真だけでなく群生で写っている写真も載っていたりしています。多摩川での植物観察等に活かせるようなつくりになっていると思いました。

教育長

どの教科書も図鑑のように写真等資料が掲載されていると同時に、教科書によっては、子どもたちのまとめ方のサンプルが掲載されています。理科は問題解決の力を養うということが基本ですが、一方で、目標としては、自然を愛する心情や主体的に解決しようとする態度を養うというものが入っています。教科書として、そのきっかけとなるかどうかという点で検討しました。「ふしぎだね」から始まり、3年生で初めて理科の本を手にして、学びを進めていく時に、まず興味関心を引くような構成になっているのは、東京書籍ではないかと思いました。

様々な学年で引きつけられるような工夫がされているということ、問題、観察の1、2、それからまとめていく、表現していくような構成になっており、さらに「広げよう理科の発想」、「次の問題を見つけよう」というような流れになっています。子どもたちが学んでいく時に、広がりを持って学びを進めることができるのではないかと感じました。

もう1社は大日本図書です。5年生では、川に注目していることに加えて、動く車や、電池の仕組み、野菜等子どもが興味を引くような日常の話題を取り上げています。6年生では食塩水を取り上げて、見つけよう、調べよう、伝えようという構成になっています。それから、写真がダイナミックで問題を見つ

けやすく、「りかのためてばこ」というような情報が整理されているところから、子どもたちの学びに適した教科書であると感じました。

それでは、最終的に最も適切であると判断した教科書を挙げていただきたいと思います。

小川委員 東京書籍を推薦したいと思います。

佐藤委員 私も東京書籍が良いと思います。

熊谷委員 私も東京書籍が良いと思います。

森委員 私も東京書籍を推薦したいと思います。

教育長 私も東京書籍を推薦します。それでは、問題解決的な学習、それから資料の見やすさ、そして、基礎・基本から発展的な学習に至るまで、資料としての役割も含めまして、東京書籍を採択するというところで御異議ございませんでしょうか。

<異議なしの声>

教育長 それでは、東京書籍を採択いたします。

次に生活科です。生活科の目標は、具体的な活動や体験をとおして、身近な生活に関わる見方・考え方を活かし、自立し、生活を豊かにしていくための資質能力を育成することを目指しております。

それでは皆さんから順次御意見をいただきます。

佐藤委員 1、2年生の学習ですので、子どもが楽しく、喜んで活動することを促す構成になっているかを1点目に重視しました。2点目に、子どもが教科に関心を持つために、鮮明な写真や図等が入っていて、子どもが具体的な活動をイメージできるかという点です。3点目に、活動として固定的な活動になり、多様な学びの視点が入ってくるかという点です。以上から、子どもの興味を引くような写真・図が豊富に使われている学校図書に着目しました。子どもが思わず活動に引き込まれるような写真を上手に使っていると感じました。

もう1社は、光村図書に着目しました。「こんなこともあるかもね」という、子どもが非常に興味を持つ導入を使っています。また、写真教材がきれいで、非常に興味を引くと感じました。

それから、東京書籍です。様々な子どもの活動や作品が例として示され、子どもが活用しやすいと思いました。東京書籍は特徴があり、同じ地域や同じ公園の場所が、時間、時期を追って示されています。虫や植物といった視点からも季節を感じますが、狛江のような都市に近い地域では、まちや通りの様子からも季節を感じざるを得ないというような状況もあります。そのような部分を教材として取り上げる点では、東京書籍の教科書を活用できると思いました。

つきましては、学校図書、光村図書、東京書籍を挙げたいと思います。

熊谷委員 低学年で具体的な活動をとおして、子どもたちが学んでいくことを重視したいと思います。子どもたち自身が何か気づいて、その中から問題を見つけて、やりたいと感じる構成になっていると良いと思います。生活科ができた頃は、社会的な内容と理科的な内容が分離されていて、どちらかに偏っているような教科書が多かったと感じました。今回の検討では、狛江市の中で周りを見回した時に、社会事象を子どもたちが実際に感じ取ることができるところが大事だと思います。そのため、学校図書の内容が良いと思いました。

それから、東京書籍についても、四季の変化や自然環境だけでなく、まちの様子等もわかるように構成されていますので、こちらも得がたいと思いました。

学校図書と東京書籍を推薦したいと思います。

森委員 学校や自然の中で気づきながら学んでいく教科が生活科だと思います。具体的な活動をとおして、社会や自然の特徴、良さ、関わりを知ること、そして自立して、生活を豊かにしていくための資質を育むのに、どの教科書がふさわしいか選びました。

光村図書を推薦します。本は少し大きめですが、表紙に厚みがあり、しっかりしているので、子どもの手で何度も開いても、しわにならずに使える、扱いやすい教科書という印象があります。また、中身も問いかけて、疑問や興味を持たせ、自分で体験活動をして主体的に学べるつくりになっています。季節の流れに沿った単元の構成になっており、とじ込み別冊の「はるのなかまたち」という取り外せるカードがついており、これを携帯して、校外での学習活動にも活かせると思います。また、「こんなことあるかもね」では、うまくいかないことや、例えば野菜が育たないのは「なぜ」といったことを人気作家の4コマ漫画で示し、子ども目線の会話や解決のヒントが載っている点がとてもわかりやすいと思いました。まち探検では、写真やインタビューが紹介されており、吹き出しで「こんな質問もあるよ」という例が提示されているのも、参考になると思います。

もう1つが東京書籍です。四季の変化というのは、自然だけでなく、まちや人々の様子からもわかると思います。江戸川区発祥の小松菜についてのテーマがありますが、農家、小松菜を使ったお菓子、まち探検で調べる、図書館で調べる、という様々なところに、小松菜がキーワードとなり、様々な単元につながるストーリー性がとてもわかりやすかったです。また、本当の大きい「いきものずかん」、実物大のイラストが示されているのですが、「いきもの」が探しやすくなっており、写真がとてもきれいなので、学習にうまく活用できると思います。教科書を見て、そこだけで学ぶのではなく、教科書をきっかけに、主体的な学習ができるような内容になっていると思いました。

小川委員 光村図書と啓林館を挙げます。

まず光村図書の教科書は、他社に比べて少し大きめで、人気絵本作家のイラストが全ページに入っていて、1・2年生に親しみやすく学習しやすいと感じました。これらの馴染みのあるイラストとともに、カラフルで目に飛び込んでくるような印象的な写真が豊富に使われています。また、安全ガイドの内容や草花、生き物の紹介、タブレットやデジカメの使い方、まち探検をする上でのインタビューの仕方等が、巻末に取り外し可能な別冊子「せいかつじでん」が綴じられています。この別冊子も、学びの可能性を広げたり深める工夫として良いと感じました。

地域のまち探検の取扱いについて、各教科書を拝見したところ、啓林館が充実していると感じました。まちは何でできているのか、どのような人たちが構成されているのか、どのような方にインタビューをすると、どのようなことが聞けるのか、地域について丁寧に学ぶことができ良いと感じました。また「びつくりずかん LIVE」では、まち全体を四季の食べ物や行事、イベント等に合わせて紹介しており、まちに住んでいることで実感できる季節の移ろいも知ることができて良いと思いました。

以上より、光村図書と啓林館を推薦します。

教育長 生活科は、具体的な活動が大切になってくると思います。その中で身近な人や社会、自然に触れて、特徴、良さ、変化に自ら気づく、生活上必要な習慣や技能を身につけることが、目標に挙げられています。

こうした「関わり」という点で、光村図書が、興味、関心を抱きながら学べる構成の教科書であると思いました。特徴的なのは、災害トイレ、海拔表示、増水注意の看板を中に入れていきますので、取り上げられている資料が狛江市の特徴と一致しており、適していると感じたところです。

もう1社は教育出版です。「わくわくスイッチ」は、少し学習の流れを誘導されると感じたのですが、約束やヒントの「学び方のポケット」、他教科との関連は優れていると思いました。

もう1社は東京書籍です。生活習慣、まち、自然から学んでいくという構成が、狛江の子どもたちが学ぶ際に適していると感じました。

それでは、最終的に最も適切と判断された1社を選んでいただきます。

佐藤委員 動物や植物の細かいところを見るという資料的な点では、光村図書だと思いました。それから、同じ場所が時間的にどう変化していくのかを見るという考え方は、中学年、高学年の社会科の歴史的な見方・考え方を見るのにつながっていきます。その点では、東京書籍の教科書が優れていると思いました。

最終的には、東京書籍の社会科につながる見方・考え方を大事にしたいと思いました。

熊谷委員 資料性に着目しましたが、確かに光村図書は資料が豊富です。ただ、ヒントが多過ぎると思っております。余りにもヒントが多過ぎると、子どもたちがそちらに引っ張られます。生活科は具体的な活動であるため、例えば、狛江の1年生、2年生が自分の周りを探検したいと思った時に、自分で課題を見つけなれないといけませんので、この辺りがどうかと思います。理科に対する見方・考え方の基本的な内容を理解させるには、やはり四季の変化、自然等をしっかり取り扱う教科書が良いと考えます。

学校図書は両方網羅していると思いますが、まだ迷っています。

森委員 自然の中で気づきながら学んでいくことは、どの教科書も素晴らしく、どれも取り上げられているのですが、問いかけて疑問や興味を持ち、自分で活動を体験していくつくりになっている部分では、光村図書を推薦します。

小川委員 光村図書を推薦します。

教育長 光村図書を推薦します。最終確認をしたいと思います。

佐藤委員 東京書籍を推薦します。

熊谷委員 ヒントが多過ぎると思いますが、光村図書が扱いやすいと思います。子どもたちもヒントを見た時に、活動にすぐ入れると思います。

教育長 子どもたちの興味関心として、写真等の資料の学習への活用、そして、学びのきっかけ、主体的な学びにつなげていくための資料、主な教材として、光村図書を採択をするということによろしいでしょうか。

<異議なしの声>

教育長 それでは光村図書を採択いたします。
ここで暫時休憩とします。

【暫時休憩】

教育長 再開します。

次は音楽科です。音楽科の目標は、表現及び鑑賞の活動をとおして、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指しております。それでは、皆さんから順次御意見をいただきたいと思ひます。

熊谷委員 内容の選択を中心に見ました。

教育芸術社は、領域毎のバランスがとれていました。様々なジャンルの中から選んだ歌唱教材があり、オリジナルの曲もあり、良かったと思ひます。また、音楽的な見方・考え方というのは難しい部分もあると思ひますが、導入部分を見ると、学習の見通しが見れるような紙面構成となっているため、導入部分での特徴があると感じました。

教育芸術社を推薦します。

森委員 歌詞に込められた意味を考えることは国語の授業につながり、有名な作曲家の生い立ちを学ぶというのは社会の授業につながり、洋楽の歌詞は英語につながる等、音楽は様々な教科のつながりになると感じました。音に親しむだけでなく、協調性や社会性を学ぶ学習につながる教科だと思ひます。

そういった観点から、教育芸術社を推薦します。リズムに親しんだり、歌詞・情景を思いながら歌うといった、様々なジャンルの中から曲が選ばれていて、とても充実した歌唱教材であると思ひます。オリジナルの曲も、各学年の実態に合った曲が選ばれていると感じました。また、全学年に歌い継ぎたい日本の歌であったり、3年以降には外国語活動と関連した英語の曲の扱ひもあります。それから、キャラクターが出てきて吹き出しに学習のヒントもあつて対

話的な学びを引き出す工夫をされているところからも、教育芸術社を推薦したいと思います。

小川委員 どちらの教科書も定番の作品が揃って入っていて、とても甲乙をつけがたいところですが、教育芸術社を推薦したいと思います。

教育出版も昔からの日本の名曲が多く入っていてとても素晴らしいと思いましたが、教育芸術社の方は、様々な楽曲が入っていて子どもたちに音楽の学びを広げてもらえると感じました。名作の紹介以外にも、本物のオーケストラを意識した構成になっていたり、表紙も子どもに馴染みのある漫画家のイラストが入っていたり、楽しみながら音楽に親しんでもらえて良いと感じました。

佐藤委員 私は子どもの頃から音楽が苦手で、同じように音楽が苦手な子どもたちが音楽を楽しく学ぶにはどうすれば良いか、という観点で教科書を見ました。子どもが楽しく学べるような教科書を採択したいと考えました。そういった観点から見ると、どちらの教科書もイラストや吹き出しを効果的に使用した教科書になっているので、素晴らしいと思いました。ただ、曲想をイメージできる、風景写真が豊富で、きれいな写真を使っていると感じたのは、どちらかという教育出版の方でした。

教育出版を推薦したいと思います。

教育長 狛江市は「音楽の街－狛江」というまちづくりを主軸とするまちです。子どもたちには音楽の楽しさを体験してほしい、音楽を愛好する心情を培っていきたいと思っております。さらに技能的な部分でいうと、音楽の構造や曲想、初等教育だからこそ様々なジャンルの音楽に親しんでほしいという思いがあります。一方で、聞く機会は、学校教育ならではの伝統的な日本の音楽を学べる絶好の機会であり、それを担う学校の役割があります。どちらも楽しんで音楽を学べる教科書ではありますが、私は教育芸術社を推薦したいと考えています。

教育芸術社の「きいている人に、音楽のもり上がりが伝わるように演奏しましょう。」というフレーズがあります。それは自分が楽しく音楽を奏でるだけでなく、相手意識を持つというところで教育芸術社を推薦します。

それでは、2社出ましたので、確認をとらせていただきます。熊谷委員は教育芸術社、森委員も教育芸術社、そして小川委員が教育芸術社、佐藤委員が教育出版、私が教育芸術社ということです。各々理由は御発言いただきましたので、教育芸術社で御異議はございませんでしょうか。

<異議なしの声>

教育長 それでは、様々なジャンルを取り扱い、各領域のバランスがとれていて、親しみやすいという観点から、教育芸術社を採択することといたします。

 それでは、次に、図画工作科です。図画工作科の目標は、表現及び鑑賞の活動をとおして、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色等と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指しております。皆さんから順次御意見を伺います。

森委員 どちらの教科書も素晴らしい作品がたくさん載っていました。スケールが大きく、鑑賞する楽しみ、面白さがともに溢れている教科書づくりだと思いました。

 その中で、日本文教出版を推薦します。見開きの題材で、子どもの発想で自由に伸び伸びとした作品が多くあり、想像力を高めることができるような作品づくりになっていると思います。また、写真や色の図鑑がとても素晴らしく、例えば、土だけからとった美しい自然の色のパレットのようなものが掲載されており、子どもたちに訴えるものがあるのではないかと思います。また、3年生の教科書では、「体でかんしょう」というページがあり、作品と同じポーズを自分でとって考えてみようというページがあります。例えば、考える人と同じポーズをとってみる、風神雷神のポーズを表現するといった、自分の体で作るといった発想もとてもユニークで、造形遊びや立体、鑑賞、また工作で何か作るといったバランスがとても良く掲載されていると思いました。

小川委員 どちらの教科書もとてもカラフルで、子どもたちの創作意欲をかき立てるような素敵な作品がたくさん掲載されていて、甲乙をつけがたいと感じました。その中で日本文教出版を推薦したいと思います。

 デジタル教材を活用したり、様々な新しいツールを使った作品が紹介されており、これらの最新の美術作品だけでなく、名作の紹介、美術作品の見方等も丁寧に紹介されています。小学生は、本物に触れる機会がまだまだ少ないと思いますので、教科書をとおして本物の絵画や芸術作品を観てみたいと感じてもらえるかどうか、教科書選びの大切な視点と思いました。また、日本画、水墨画等日本の様々な名作作品もたくさん紹介されており、ヨーロッパの著名な作家の作品等もたくさん紹介されていたので、日本文教出版を推薦します。

佐藤委員 私は図工も苦手でしたので、図工は嫌だと思っている子どもでもできると思える教科書を選びたいと思いました。子どもが楽しく学ぶ活動や、図工の学習には当然技術的な指導も入ってくると思いますので、技術的なことを学びやす

いものが良いのではないかと思いながら、2社の教科書を拝見しました。どちらも子どもが楽しく活動するような例をたくさん出して、感性を大事にした図工科を作ろうという意図は伝わってきました。ただ、開隆堂の方は多少芸術的で難しいという感じを受けました。日本文教出版の方が芸術的センスが弱い私のような子どもでも取り組みやすそうな感じがしました。また、日本文教出版の方は、技術的な人を大切にしていると感じました。材料と用具の引き出しというページがあり、このページを使うと、不器用な子どもでも何とか作品にたどり着くことができるのではないかと感じました。

従って、日本文教出版を推薦します。

熊谷委員 私も佐藤委員が指摘されたような観点から2社の教科書を見ましたが、用具の使い方の部分は、細かく指導していかないと事故につながります。開隆堂の方もきちんと指導をするようには構成されていますが、日本文教出版の方は、興味と関心を高めながら嫌いにならないように指導ができる、注意事項をきちんと教えることができるのではないかと思いますので、日本文教出版を推薦したいと思います。

教育長 図画工作科の目標の中には、作り出す喜びを味わう機会とするという目標があります。その中で、子どもたちが造形をする際に、まずイメージを抱き、そのイメージを具現化させ、具現化したものを自分でさらに思いを広げていくという学習活動が繰り返されると思います。教科の特性として、どちらの教科書の方がイメージしやすいのかという観点から、写真掲載によって活動のイメージがしやすいのが、日本文教出版ではないかと思いました。また日本文教出版は、題材毎に感じてほしいことや発見してほしいことが記述されており、教科書の使い方や、各領域の内容と題材、教材教具の引き出し等も掲載されているため、学ぶ時に、これをよりどころとして、想像ができるのではないかと思います。

それでは、これは全員1社となりましたので、日本文教出版を採択するということがよろしいでしょうか。

<異議なしの声>

教育長 それでは、日本文教出版を採択することといたします。

次に家庭科です。家庭科の採択につきましては、森委員から、利害関係がある旨の申告がございましたので、森委員に退室いただくことで御異議ございませんでしょうか。

<異議なしの声>

教育長 それでは暫時休憩いたします。

【暫時休憩】

教育長 再開いたします。

家庭科の目標は、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住等に関する実践的・体験的な活動をとおして、生活をより良くしようと工夫する資質・能力を育成することを目指しております。それでは、皆さんから御意見をいただきます。

佐藤委員 日常の家庭生活で活かすことができる学びがとても大事な視点だと思えます。そして、日常生活で活かすためには、家庭科に係る技術的な学びも必要です。そういう意味で、日常生活のつながりをどの程度重視しているのか、どんな子どもでも技術力を身につけることができるかという観点で、教科書を拝見しました。

その結果、東京書籍の方が良いと思いました。東京書籍は学習の目的に即したメニューや日頃馴染みのある食材が積極的に取り上げられていると感じました。また、手順等作業の技術的な説明に完成図や、図、写真が多く用いられており、イメージが湧きやすいという印象を受けました。

熊谷委員 家庭科の授業や活動の中で学んだことを、将来にわたって、特に自宅で活用できるかどうか大切に思います。

そのような実学的な観点から、開隆堂の方は、ガスコンロの扱い等、生活に役立つ内容や身近な事例が多いと感じました。また、野菜に関する部分では、ジャガイモの芽に気をつけるべきということを強調しています。実際に私が教員していた時、ある学級でジャガイモの芽で食中毒をした事案がありましたので、そういった内容を扱っているのが良いと思いました。

東京書籍も安全教育に関する内容が込められていますが、開隆堂をより推薦したいと思います。

小川委員 家庭科で学ぶ内容は、男女ともに必要な生活スキルの基本であるため、調理や洗濯、掃除・片付け、整理整頓の仕方等についてわかりやすく学べるように構成されているかについて着目しました。その点で開隆堂を推薦します。開隆

堂は、様々な生活スキルを学ぶ手順の表示がシンプルでわかりやすいと思いました。特に米の炊き方と片付けの手順がビジュアルで示されていて、理解しやすいと思いました。また、学習のめあてや各ページにマメ知識のコーナーを設けて、全体的にSDGsを意識して構成されているのも良いと思いました。さらに調理実習等で教科書が濡れたり、汚れてしまうことを想定されてか、紙の質感が他社とは異なり、表面の加工がされている点も良いと思いました。

教育長 家庭科については、家族、家庭、衣食住、そして消費生活、環境等日常生活に必要な基礎的な理解を図ることは、重きにあると思います。そして、それらの技能を身につけて日常生活に活かしていく力と、さらにそこから問題を見出して自分で解決していく力を育てていきたい教科書です。どちらの教科書も、子どもたちが段階を経て、様々な課題を設定して解決を導くという流れで構成されています。視覚的な教材として、分量、構成、便宜上のことと、狛江の伝統建築である古民家が掲載されていることから、開隆堂が適していると考えました。

生涯にわたり生活に活かしていく力を育てるという点では、両社とも十分活かされておりますが、開隆堂ということで御異議はございませんでしょうか。

<異議なしの声>

教育長 それでは、開隆堂を採択いたします。
暫時休憩といたします。

【暫時休憩】

教育長 再開いたします。
次は保健です。保健の目標は、保健の見方・考え方を働かせ、課題を見つけ、その解決に向けた学習過程をとおして、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目指しております。それでは皆さんから順次御意見をいただきます。

小川委員 保健は、まず前回の教科書選びとの大きな視点の違いとして、感染症についての記載に注目しました。また、狛江の子どもたちに心の強い大人に成長してほしいと考えて、心の健康、不安・悩みへの対処の仕方、人との接し方等、大

人になっても使うような自分の気持ちを保つためのメンタルヘルスの記載に注目しました。

その結果、光文書院を推薦したいと思います。時間数の少ない保健の授業の中で、内容を的確かつシンプルに理解してもらうような工夫が随所でされており、表紙のイラストも生き生きとしていて令和らしく新しいと感じました。また、教科書に自分の考えを書き込むスペースも多くとられている点も良かったです。相手への対応や自分の気持ちへの対応の仕方、他者への相談の仕方が様々なバリエーションで子どものイラストとともに紹介されていて、具体的に自分の心の保ち方をより具体的にイメージできて良いと思います。

もう1つはGakkenを挙げたいと思います。Gakkenは内容がとても充実していると感じました。イラストや写真が多く使用されている点、例示している内容も身近な出来事で理解しやすい点、それから思春期の不安・悩み等への様々な対処事例が紹介されている点が良いと思います。

佐藤委員 学習過程がはっきりしていて学ぶ意欲が喚起されるかどうか、そして、学んだことを日常生活の中で活かす視点を大事にしているかどうか、という2つの観点から検討しました。まず、大日本図書はつかもう、考えよう、話し合おう、活かそう、という学習のステップが特にはっきりしています。2つ目は、大修館書店です。単元毎にステップ1から3の構成になっており、課題の把握、話し合い等が位置づけられていて、さらにそこに細項目で位置づけられています。3つ目に光文書院です。見つけよう、調べよう、話し合おう、やってみようという学習のステップがはっきりしています。そのため、さらにこの3社の細かい部分に注目した結果、大日本図書は少し知識を獲得させる傾向は強く、知識注入に陥る傾向があるのではないかと感じました。大修館書店は、感想や思い、考え、まとめを記入する枠があり、子どもの考えを発揮することができるのではないかと思います。光文書院は子どもの書き込み枠があるのが良いと感じました。

つきましては、光文書院と大修館書店が同じくらい、その下に大日本図書という順序です。

熊谷委員 子どもが教科書を使って、自主的に課題をつかみ解決するという問題解決学習の展開になっているかどうかという点で検討しました。大日本図書は、つかもう、考えを話し合おうと、学習展開をしっかりと提唱していました。光文書院は問題解決の要素が非常に強く、かつ構成や分量も吟味されていたので、良いと思いました。大日本図書も非常に良いと思いますが、やはり知識注入型の部分が強調されているという気がしました。

従い、第1に光文書院、第2に大日本図書を推薦したいと思います。

森委員 光文書院を推薦したいと思います。見つけよう、調べよう、話そう、活かそうという学習の順序が出ていて、問題解決型の学習展開になっているのが学びやすいと思います。1時間という授業の中で学ぶ範囲がはっきりと示されているので、学習が進みやすいと感じました。またスポーツ障がいとして、例えば小学生でも起こりやすい野球肘等が紹介されていますが、ケガだけでなく、プロスポーツ選手の食事等の生活習慣についても触れられています。スポーツをする子どももとても多いので、そのような興味関心を引く内容が掲載されているところも良いと思いました。どの教科も新しい感染症として、新型コロナウイルスについて触れられています。光文書院には、感染したことについて、差別につながらないように思いやりを持って行動すべきといったことも紹介されていました。

もう1社はGakkenです。考え、話し合い、そして記述をしながら学習をする進め方で、自分の考えをまとめて書くことがとても充実されていると思いました。つかむ、考える、そしてまとめて深める、というのが見開きで配置されているのも見やすいと思います。また、単元の振り返りがとても充実していて、まとめには、自分のこととして考えることができる工夫がされています。新型コロナウイルスのことだけではなく、これまでの感染症の歴史が載っていたというのが、興味深いです。またヘルプマークや耳マークといったものもあり、これからのともに生きる社会に向けての工夫例が載っているところも、評価したポイントです。

教育長 保健という授業は、体育科の保健領域ですので、限られた時間の中で取り扱います。その中でも、健康の保持増進等、楽しく明るい生活を営む態度が求められます。そして学びとしては、自己の課題を見つけて試行して判断して、解決に結びつける力を育むことが求められております。その中で、疾病を教えるのではなく、疾病で教えるということはキーワードになってくると思います。そういった意味から、学び、学習展開等々に鑑みた時には、光文書院の比較・関連づけも含め、問題解決的な学習が進められるのではないかと思います。

もう1社はGakkenです。狛江の地域特性として、成育医療センターが近くにあります。健康とはどういうことなのかという、そもそものところから、経験や課題を設定して、そして、解決の流れというのが、学習の展開として設けられており、また、書き込む欄が設けられているところから、Gakkenを推薦したいと思います。

それでは、最終的に最も適切だと判断された1社を御提案いただきます。

小川委員 光文書院を推薦します。

佐藤委員 光文書院を推薦します。

熊谷委員 光文書院を推薦します。

森委員 光文書院を推薦します。

教育長 光文書院を推薦します。それでは、学習の展開、そして日常生活に活かすこと、様々な資料等に鑑みまして、光文書院を採択するということがよろしいでしょうか。

<異議なしの声>

教育長 それでは、光文書院を採択いたします。

次は、英語です。外国語科の目標は外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動をとおしてコミュニケーションを図る基礎となる資質能力を育成することを目指しております。それでは皆さんから順次御意見をいただきます。

熊谷委員 狛江の子どもたちの英語の授業を見学しましたが、相当レベルが高いのではないかと思います。東京都の英語のトレーニング施設があり、狛江の子どもたちも行っていますが、その内容が相当ハイレベルで、始めのうちは少し戸惑うところがありつつも、子どもたちの実力を見ると十分にそれに対応できているのではないかと思います。英語力の中で一番大切なのは、特に小学生の段階で話すことだと思います。東京都の学力調査の結果から、英語の話すことが少し劣るところがあります。

以上のことから、話すことに一番力を入れているかどうかという観点から、三省堂の教科書が狛江の子どもたちのレベルに非常に合っているのではないかと思います。2番目としては、光村図書がスピーキングのところに力を入れていると思いました。

森委員 小さい頃から英語に親しむ機会も増えていますが、学習においては実際の場面をイメージしやすい設定で取り上げられている教科書が良いと思います。

三省堂を推薦したいと思います。「Let's Listen, Let's Speak」というコーナーがあり、質問内容がとてもシンプルで、内容量も多過ぎないので、英語でできること、聞く、話す、読む、書くの分量がバランス良く掲載されています。小学生から英語を親しむコンテンツになっており、英語嫌いにならないような分量になっていると思います。スペルが書き込みやすい大きさのスペースがとられていて、子どもが課題に取り組みやすいと感じました。また、日本の大発見で地図が載っているところがあり、日本の名所が色々載っていて、2次元コードで音声を聞くことができるようになっています。例えば東京の国会議事堂や横浜中華街、栃木の餃子等を、地図と英語で見て、発音を覚えることもできて、英語だけでなく、社会科とも連動できる場所も良いと思います。

6年生では、英語でプロフィールカードを書くところがあります。小学校の英語の仕上げとして、夢や、思い出、学習のまとめ、そして、中学の英語への導入にもつながっていくのではないかとこのところ、三省堂を評価します。

もう1社が光村図書です。初めて触れる英語は、やはり繰り返しやっていくことで、身についてくると思います。6年生の目標、6年生になってできることが掲げられていて、聞く、読む、話す、書くといったバランスが良く教科書に載っていると思います。ホップ・ステップ・ジャンプの順で、3年後のゴールに向けてスモールステップに沿って学習が進められるような構成になっています。また、外国の友だちにインタビューをしたり、日本の文化を紹介する活動をしたりして、英語によるコミュニケーションが必要であるということを理解しながら学習を進められるところが、とても良かったと思います。

小川委員 1つ目として啓林館を挙げたいと思います。啓林館は各単元の学びのテーマがとてもわかりやすく、学びのテーマがそのまま単元のタイトルになっているものもあり、題名をそのまま覚えてもらいたい、覚えておきたいフレーズになっていて良いと思いました。他のページも、日本の文化、世界遺産、世界で起きている社会問題等、英語をとおして国際社会のSDGsにつながる知識も得られる構成になっていて良いと思います。また、どの教科書にも巻末にワードリストがありますが、啓林館のワードリストは使いやすくなっていると感じました。

もう1つは光村図書を挙げたいと思います。英語は、間違えたらどうしよう等、苦手意識を最初に持ってしまい、ヒアリングとスピーキングのハードルが高いと思います。6年生の1ページ目に、「やってみよう。まちがいをおそれずに。」と、一文のみ大きな文字でシンプルに書いてあるのがとても印象的で良いと思いました。また、心が通った英語での受け答えができるように、相手の心に届くスピーチの仕方や英文の組み立て方、英語になった日本語等を学習

内容に取り上げて、国語を学ぶように英語も学んでほしいという意図が感じられ、またその意図に強く共感したので、光村図書を推薦します。

佐藤委員 小学校の英語について、英語に親しみを感じて、楽しく、活動をするような構成になっているのか、そして、初めての学びだからこそ、色々な学びに活用できるような構成になっているのかという2つの視点で考えました。

まず、取り上げたいのは光村図書です。光村図書は、左側のページが知識的な内容をインプットする、右側のページがアウトプットする、つまり、具体的に活動していくような構成になっています。そういう意味から、非常にわかりやすく、子どもも使いやすいのではないかと、思いました。それから、巻末にピクチャーディクショナリーが付いていて、これはどの教科書も付いていますので、使える1つの要素ではないかと思えます。もう1点、中学校の英語の教科書は光村図書であったと記憶しています。中心的な理由ではないのですが、中学校とのつながりを考えると、小学校から光村図書を使っておくというのも有効ではないかと感じました。

もう1つは三省堂です。見やすく、適度な文字量の構成であるという印象を受けました。日本や世界の文化理解に関する内容もあり、外国語教育の1つの目的である国際理解にもつながっていくものだと思います。それから、三省堂はMy Picture Dictionaryが別冊になっており、光村図書よりも使いやすいのではないかと、思いました。

教育長 まず、子どもたちが3、4年生で外国語活動を学び、そして5、6年生になって初めて英語として学びますが、その中で、英会話から脱却しているかということをもとに着目しました。話すことというのは、全国的にも課題がとなっており、狛江市でも力を入れていきたいところではありますが、初めての学びということから、聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと、話すことのやりとりと発表が分かれていますので、この5つの領域が、十分単元の中に位置づけられているかどうかを、もう1つの着眼点としました。すべての領域がバランス良く構成されているのは三省堂でした。そして、話すことの中のやりとりと発表のバランスを見た時には、発表にかなりの時間を位置づけているのは三省堂であったことから、英会話に留まらず、話すことの中の発表、プレゼンテーション能力というものを培う上では、三省堂がふさわしいと思います。

そして、もう1つは光村図書です。世界の郷土料理と建築物の紹介があり、世界の文化を知るためには内容が十分ではないかと思いました。また、学習の指示が明確であり、聞く、話す、書くというようなことが明示されていますので、わかりやすい構成になっていると思いました。

それでは、最終的に最も適切と判断された、1社絞りたいと思います。

熊谷委員 スピーキングにおいて、教育長の御指摘のとおり、プレゼンテーションもこれから大事になっていくのではないかと思いますので、バランスがとれた三省堂を推薦したいと思います。

森委員 同じく三省堂を推薦したいと思います。

小川委員 私は光村図書を推薦したいと思います。

佐藤委員 光村図書を最終的に推薦したいと思います。

教育長 三省堂と光村図書の教科書を再度御覧いただき、決めていきたいと思えます。今話題になりました、話すことの中のやりとりと発表について、東京都の調査研究の中の総括表から、各社がどの程度取り扱われているのかを申し上げます。5、6年生合わせて、三省堂はやりとりが91、発表が50、光村図書はやりとりが97、発表が38です。最終確認をとらせていただきます。

熊谷委員 スピーキングを重視しなければいけない中で、やはりプレゼンテーションは非常に大事だと思います。英語を話すことができるだけでなく、これからは英語で考えるということを強調していかないとはいけません。私も海外生活が長く、米国の大学で学んだこともあります。プレゼンテーションで自分の考えを伝えるということは重要です。その基本の部分を小学校から学ぶため、プレゼンテーションの項目の多い方が良いのではないかと思います。

また、先ほど冒頭で申しましたように、実際に子どもたちが持っている力を授業で見た時、相当なものがあると感じました。その狛江の実態に合わせるためにも、三省堂レベルの教科書を取り入れても良いのではと思います。

森委員 話すだけではなく、書いて、読んで、理解して、コミュニケーションを図るところまでの言語活動の学びとなると、私は三省堂の方が使いやすい教科書と考えます。

小川委員 発表する割合が、光村図書の方が若干少ないと思います。その少なさがどの程度英語の学習習得レベルに影響するのかわかりませんが、英語を使って人前で発表することは、大人でもハードルが高いと思います。それを小学生の最初の英語学習のスタートから大いに訓練するというのは、これからの狛江の子

どもたちにとって必要不可欠な学習であると思いますので、私も三省堂を推薦します。

佐藤委員 考え方は先ほどから申し上げているように基本的には変わりませんが、流れの中で三省堂という御意見も強く、また、私は甲乙をつけがたい思っていますので、三省堂でも構わないと思います。

教育長 それぞれ理由を、おっしゃっていただいたように、学びということでは、どちらも非常に精選された素晴らしい教材であることは確かであります。今、求められている力として、特に話す点、全体的なバランスを考えて、三省堂を採択することで御異議がございませんでしょうか。

<異議なしの声>

教育長 それでは三省堂を採択いたします。

次に、道徳です。道徳は特別教科として、より良く生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的価値について理解を深め、自己を含め、物事を多面的、多角的に考え、自己の生き方について考えを深める学習をとおして、道徳的な判断力、信条、実践意欲と態度を育てることが目標となっております。

それでは、順次、御意見をいただきたいと思います。

森委員 東京書籍と光文書院を推薦します。子どもたちの心をどのように大切に育てていくのか、多様な価値観を考えていく学びをするにはどれがふさわしいのかを考えました。東京書籍は、表紙のタッチの色合いがやわらかく、非常に優しい印象で良かったと思います。また、中学年、高学年の教材には現在活躍する著名人や歴史上の人物の内容もあり、バランス良く取り入れられています。道徳は、価値の押しつけがあっては良くないと思いますが、病気に関する差別について、2つの事例が4コマ漫画風で載っており、SNSを使って差別や偏見が起こる仕組みや、実際にあるネット社会の怖さ、情報化社会がわかりやすく説明されていたところも評価できると思います。また、自然への関心で多摩川に関するタマゾン川の文章も載っていた箇所、狛江の子どもたちは興味を引くのではないかと思います。最後のページに、考えるためのツールが載っており、心情スケールや心を色で表現するといったものも掲載されていました。それから、例えば「えがおも、ことばだよ。」等の言葉が表紙に載っており、表紙をめくると、そこには、これは「ともだちをおもう、ちから」等、表紙と次のページに関連性があることも、学びやすいと思ったところです。

もう1つは光文書院です。単元毎に、見つけよう、考えよう、まとめよう、広げよう、という構成になっていて、順を追いながら、学びを深めていけるところが良かったと思います。内容的には、どちらも甲乙をつけがたいですが、光文書院の方には、狛江にも縁のあった、松江豊寿先生のが、「国をこえた交流」というところで載っており、文章だけでなく、2次元コードで読み取ると、徳島県鳴門市での第9の演奏を実際に聞くことができます。紙面だけでは、伝わらない歓喜の歌を、2次元コードをとおして聞くことができるというのも、とても良かったと評価をしました。

小川委員　まず、タマゾン川が載っていた東京書籍を推薦します。タマゾン川の学びをとおして、道徳だけでなく、国際的な学びや地域的な学びもでき、また、それらの学びを広げていくこともできる、1つの題材で色々なことを学べる仕掛けがあり、良いと思いました。

2つ目は光文書院を推薦します。光文書院は「みんなでやってみよう」で、色々なやりとりを再度学び直せる工夫がされています。また、「学びの足あと」という学習のまとめを自分で自由に書き込めるページがあり、個々で学びを深められて良いと思いました。

3つ目は日本文教出版です。深い学びにつながる別冊の道徳ノートがあり、このノートをうまく活用することができれば、学びを深められて良いと思いました。

佐藤委員　どれも素晴らしい教科書で、一番迷ったのは道徳でした。まず、道徳は、教員の子どもへの押しつけであってはならず、子どもが自由に考えて、自分の発想を大事にしながら道徳性について考えていく、という授業でなければいけません。そうすると、これを考えようという発問は多くあるべきでなく、2つ程度が適切ではないかと思います。

この観点から、1つ目は東京書籍を推薦します。東京書籍は、考えようが2つだけであり、その後につながる、広がるという内容がサブ的な形で付けられています。他の教科書は、考えようが2つ、深めようが1つ、つなげようが1つというような、4つの考えることがあるため、それでは多いのではないかと思います。

次に、適切な教材であるかどうかという観点から、東京書籍は安心、安全、いじめがユニット化された教材ですので、テーマを絞った時には、非常に扱いやすい構成になっていると思います。また、この観点から、2つ目として教育出版を推薦します。教育出版は非常に幅広い視点で人物を選択している印象を受けました。

3つ目としては、光文書院です。6年生の教材として松江のドイツ人の捕虜収容所で初めて第9を歌ったという内容が取り上げられています。その所長の松江豊寿氏は会津の方ですが、狛江市にお住まいで、狛江市で亡くなっています。そのことはあまり知られていませんが、こういう方の存在を狛江の子どもたちに広めていく必要があるのではないかと思います。教科書の発問は、ほぼ4つあるので多過ぎると思いますが、教材という意味では、光文書院が「第九がひびく町」が気になりました。

以上の観点から、東京書籍、教育出版、光文書院の3つを推薦します。

熊谷委員 道徳という教科は押しつけではいけないと思いますので、フレキシブルな課題を取り上げているのはどこかという観点で検討しました。

Gakkenは非常に自由度が高く、子ども自身で判断できるのではないかとこの点が良いと思いました。また、まとめた着眼点を提示しているのも良いと思いました。

2番目に推薦したいのは、東京書籍です。2つの発問項目を出しており、子どもたちも踏み込みやすいのではないかと思います。

3番目は、日本文教出版です。歴史上の人物と現在活躍している人物が多く取り上げられている点が良いと思いました。

教育長 どの教科書も題材が洗練されていて、様々な教育課題に対応できるような内容になっています。中学校との関連で人物が重なっていないかというチェックをしましたが、どの教科書も現在、中学校で使っている教科書と、重なって人物が出てきているということがわかりましたので、すべて同じ条件だと認識しています。

まず、主体的に考え、議論できる教材であるかどうかに着目しています。また、子どもたちの思考力、考えが深化できるようなつくりになっているかどうか、という着眼点を設けました。その結果、1つ目はGakkenです。現在活躍している人物や題材を掲載しながら、主体的に考えて、議論ができる教材を取り扱っており、「考えよう」で必ず自分のこととして考える発問があるところは、とても印象に残っています。2つ目は日本文教出版です。子どもたちの思考力の深化に適しているということ、歴史上の人物と現在活躍している人物の掲載があり、対象が幅広いということ、そして、道徳ノートが別冊であるということが魅力だと思いました。3つ目は東京大空襲やタマゾン川等の題材を扱っている東京書籍を挙げます。

それでは、最終的に最も適切と判断した教科書を決めていきたいと思いません。

森委員 東京書籍を推薦します。

小川委員 光文書院を推薦します。

佐藤委員 教科書の良さという意味で、東京書籍を推薦します。

熊谷委員 多様性を見たいと思い、フレキシブルな Gakken を推薦します。

教育長 私も、Gakken ではありませんでしたが、もう 1 度、絞りたいと思います。ここで、Gakken と東京書籍に絞らせていただき、どちらかを採択していきたいと思しますので、もう 1 度教科書を御覧ください。
それでは、最終的に決めていきたいと思えます。

森委員 Gakken を推薦します。

小川委員 東京書籍を推薦します。

佐藤委員 考えようがすっきりしているという意味で、東京書籍を推薦します。

熊谷委員 フレキシブルということで、Gakken を推薦します。

教育長 それでは最終的に決定していきたいと思えます。皆さんの御意見を受けまして、再度東京都の調査等を照らしてみますと、両社はほとんど変わらないというような状況にはあります。ただ、差がついていることとして、人物、情報モラルと現代的な課題というところでは、若干、Gakken の方が数は多いというような結果が出されています。
そこで、今回、採択は Gakken としたいと思えますが、御異議ございませんでしょうか。

< 異議なしの声 >

教育長 それでは、特別教科道徳は Gakken を採択いたします。

以上で、小学校の教科用図書の採択を終了いたします。

次に、議案第 25 号、令和 6 年度狛江市立学校使用特別支援学級用図書の採択について審議いたします。詳細は指導室長から説明いたします。

指導室長 狛江市立学校特別支援学級用図書は、狛江市立小学校及び中学校教科書採択に関する実施要綱第9条の規定に基づき、特別支援学級設置校の校長から、議案別紙資料のとおり、教育委員会に報告されております。「狛江市立学校特別支援学級調査資料」に掲載されている図書等は、いずれも東京都教育委員会から示された一般図書一覧等を参考に、各特別支援学級設置学校が十分に調査研究し、児童・生徒の教科の主たる教材としての内容を備えた教育上適切なものと判断されるものです。なお、狛江第一小学校に設置されている知的特別支援学級、狛江第三小学校及び狛江第三中学校に設置されている自閉症・情緒障がい特別支援学級においては、通常学級と同一の検定教科書を使用するため資料はありません。

教育長 それでは、これより狛江市立学校使用特別支援学級用図書の採択の協議を行いたいと思います。議案別紙資料について、御意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。別紙資料について特に異論がないということで、よろしいでしょうか。

佐藤委員 一般の教科書を使う場合は、全国どこでも使われているので、使用実績は、ある程度、状況等報告されたりして把握していると思いますが、特別な図書を教科書として使う場合の状況把握をどのような形でしているのか、伺います。

指導室長 教科書の選定にあたりましては、選定の理由に記載のとおりになっております。こちらに関しましては、学校の実態、児童生徒の実態に合わせて、使用していると理解しているところです。

佐藤委員 教育委員会として、その使用状況の把握についてはどのようにしているのか、伺いたいと思います。

指導室長 全国的な使用状況や実績は把握しておりませんが、本市における主な使用状況に関しましては、学校へ指導訪問、指導室訪問等に行った際に、あるいは学校図書館でも同様の図書資料がありますので、その使用状況等を聞き取りながら、把握をしているところです。

佐藤委員 校長先生も含め、その辺をしっかりと把握していただきながら、使用していくことをお願いしたいと思います。

